

令和元年度 道の公共土木事業(直営)における木材使用実績について

HP公表

1 木材使用実績(原木換算)

(単位:m3)

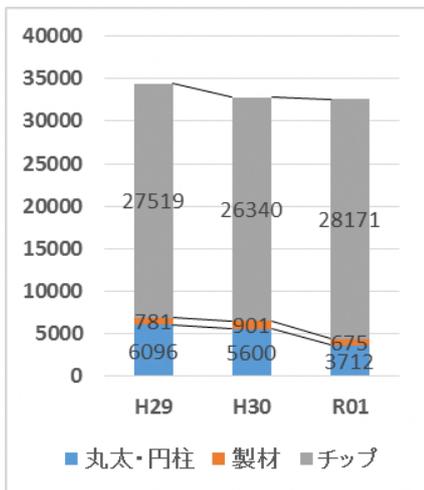
	丸太・円柱(m3)			製材(m3)			チップ(m3)		
	年度	数量	前年度比	年度	数量	前年度比	年度	数量	前年度比
農政部	H29	6,096	-	H29	781	-	H29	27,519	-
	H30	5,600	92%	H30	901	115%	H30	26,340	96%
	R01	3,712	66%	R01	675	75%	R01	28,171	107%
建設部	H29	205	-	H29	3,961	-	H29	12	-
	H30	341	166%	H30	4,860	123%	H30	37	308%
	R01	154	45%	R01	4,476	92%	R01	43	116%
水産林務部	H29	1,048	-	H29	1,713	-	H29	1,239	-
	H30	781	75%	H30	969	57%	H30	4,064	328%
	R01	806	103%	R01	1,515	156%	R01	451	11%
合計	H29	7,349	-	H29	6,455	-	H29	28,770	-
	H30	6,722	91%	H30	6,730	104%	H30	30,441	106%
	R01	4,672	70%	R01	6,666	99%	R01	28,665	94%

※端数処理により合計が一致しない場合がある。

※製材及びチップの使用実績は(参考)の方法により原木換算したものである。

2 各部の状況

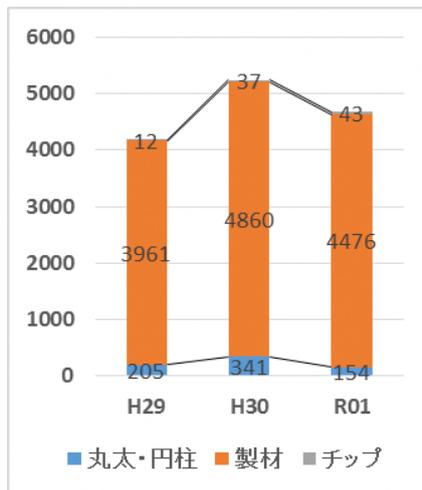
(1) 農政部



【分析】

チップを疎水材として使用する暗渠排水工事や木杭を基礎として使用する用排水路工事の件数が増加傾向にあるが、コスト削減の観点から木材の使用量が微減している。

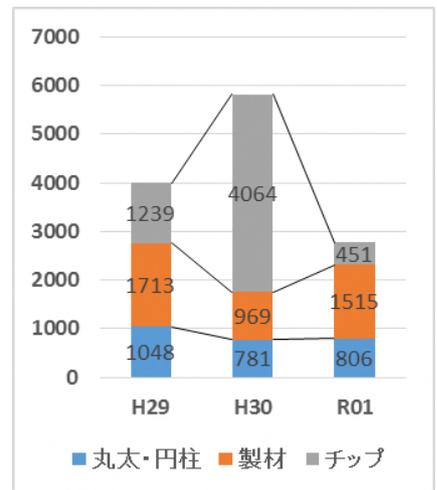
(2) 建設部



【分析】

H28 災害の復旧工事期間の H30 まで丸太・円柱及び製材の使用量が増加したが、R01 では使用量が減少した。

(3) 水産林務部



【分析】

H28 の災害(風倒被害)における被害木整理を行ったため H30 はチップの使用量が増加。また、森林整備で防風柵を計画した年度は製材の使用量が増加している。

3 コンクリート型枠合板の利用実績について

所属部	年度	使用量(m2)	うち道産材量(m2)	道産材の割合
農政部	平成30年度	934	781	84%
	令和元年度	1,241	365	29%
建設部	平成30年度	138,355	46,166	33%
	令和元年度	118,613	27,381	23%
水産林務部	平成30年度	28,043	26,997	96%
	令和元年度	24,234	23,166	96%
合計	平成30年度	167,332	73,944	44%
	令和元年度	144,088	50,912	35%

(参考)

原木換算方法

・製材→原木

製材での使用実績を A(m3)として

原木量(m3) = $A \div 0.637$ (63.7 %) より算出

(平成 28 年木材需給表 木材需給表の作成方法(2)丸太換算率 林野庁より引用)

・チップ→原木

チップでの使用実績を B(m3)として

原木量(m3) = $B \times 0.3$ より算出

(木材チップの換算係数 全国木材チップ工業連合会 より引用)